

五因子モデルを用いた SNS 依存の分析

東京都立戸山高等学校 SS 情報 1 年 高城花菜

研究動機

これまでの研究で、MBTI 類型論を用いて性格と SNS 利用の関係について考察した。その際はグラフを用いて分析したが、数値を用いた分析もしたいと思ったため。

研究目的

SNS に依存しやすい性格を明らかにしその理由を探る。

研究方法

Forms を用いて 36 人の高校生にアンケートを行った。アンケートは五因子モデルを用いた性格診断と SNS 依存度を図るアンケートを作成し、その後 Excel で相関係数を算出した。

五因子モデルとは

5 つの要素（経験への開放性、外向性、調和性、誠実性、神経症傾向）でその人のパーソナリティの特徴を大まかに説明できるとする特性論。それぞれの特性がどのくらいあるのかによって性格を診断する。

結果

	開放性	協調性
SNS	-0.247442258	-0.0143129
Instagram	-0.261864145	0.07270317
Twitter	0.079530628	-0.0972379
YouTube	-0.208340739	-0.0268369
誠実性	外向性	神経症依存
0.01548919	0.00807629	0.25777131
0.18214288	0.0583075	0.03813586
-0.1015682	0.03158459	0.03896434
-0.0775774	-0.0618756	0.35513067

各種 SNS と五因子の相関（左列下段図）

- ・ SNS 全体、Instagram、YouTube と経験への開放性に弱い負の相関がみられた
- ・ SNS 全体、YouTube と神経症傾向に弱い正の相関がみられた。

考察・結論

- ・ 開放性の高い人は知的的好奇心が強く新しいアイデアや行為への親和性が高い傾向にあるため、裏を返せば物事に飽きやすい。そのため SNS 依存度が低いと考える。
- ・ 神経症依存の高い人はストレスに弱く、情緒不安定になりやすい。このような人ほど SNS などの非現実の空間にのめり込みやすい傾向があるため、SNS 依存度が高いと考えられる。

展望

- ・ アンケートがわかりづらく長かったためサンプル数が集まらなかった。事前に何人かに答えてもらい改善を加えてから拡散するようにしたい。

参考文献

性格特性の五因子と Twitter 利用動機・インターネット依存傾向の関連
<https://onl.la/r8aUKWz>
ビッグファイブ性格診断
<https://onl.la/iGAfPWJ>
ビッグファイブ理論とは？心理学での性格は五因子で説明できる
<https://onl.la/dqdrBLw>